

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表: 令和6年2月22日

事業所名 放課後等デイサービス ゆっこゆっこ

| | | チェック項目 | はい | いいえ | 工夫している点課題や改善すべき点など |
|----------|----|--|----|-----|--|
| 環境・体制整備 | 1 | 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である | ○ | | |
| | 2 | 職員の配置数は適切である | ○ | | |
| | 3 | 事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている | ○ | | 玄関の外の段差をバリアフリーにした。スロープも滑らないようにメンテナンスを行っている。 ガラスの窓、扉など飛散防止のフィルムを全て貼った。 |
| 業務改善 | 4 | 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している | ○ | | |
| | 5 | 保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている | ○ | | アンケート結果を分析し保護者の意向に沿うようディスカッションを行い早急に改善したい。 |
| | 6 | この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している | ○ | | ホームページで公開している。 |
| | 7 | 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている | | ○ | 部内監査により評価に基づき即業務改善をしている。 |
| | 8 | 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している | ○ | | 毎月一回以上は研修計画し実施している。 |
| 適切な支援の提供 | 9 | アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している | ○ | | 保護者の方の意見を聞いてサービス計画を立てている。 |
| | 10 | 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している | | ○ | アセスメントツールについて知識を増やす。 |
| | 11 | 活動プログラムの立案をチームで行っている | ○ | | 長期休み期間は事前に計画を作り、保護者に知らせ、リーダーのもと協力しあって活動している。 |
| | 12 | 活動プログラムが固定化しないよう工夫している | ○ | | |
| | 13 | 平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している | ○ | | 平日は自立支援、療育に活動を主にを行い、長期休暇等は主に創作活動、野外活動を立案し実施している。 |
| | 14 | 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて放課後等デイサービス計画を作成している | ○ | | 小農をできる環境で植付けや収穫等を皆で行い、作物の成長を感じたり収穫により達成感を感じてもらいたい。 |
| | 15 | 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している | ○ | | 支援開始時ミーティングを実施している。予定された内容が変更される場合その日の責任者が注意事項等を周知徹底する。 |
| | 16 | 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している | ○ | | 業務日誌は連絡事項や予定、実績など記入し出勤時必ず目を通すよう通達している。重大な事柄については臨時会議を行い意思疎通を計る。 |
| | 17 | 日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている | ○ | | 日誌、連絡帳、忘備録など正確に記録している。 |

| | | | | | |
|--------------|----|---|---|---|--|
| | 18 | 定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している | ○ | | |
| | 19 | ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている | ○ | | |
| 関係機関や保護者との連携 | 20 | 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している | ○ | | サービス担当者会議には経験豊富な管理者を参画している。 |
| | 21 | 学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている | ○ | | SNS等で保護者との連絡網でトラブル等に即対応できるようにしている。 |
| | 22 | 医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている | | ○ | 今まで事例がないがいつでも体制を整えられるよう準備している。 |
| | 23 | 就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている | ○ | | 新入学する利用者がある場合情報共有をしている。 |
| | 24 | 学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している | ○ | | 支援内容の情報を提供をするようにしている。 |
| | 25 | 児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている | ○ | | |
| | 26 | 放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある | | ○ | 機会があれば交流イベントに参加したい。 |
| | 27 | (地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している | | ○ | 子供部会の活動、イベントに参加したい。 |
| | 28 | 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている | ○ | | |
| | 29 | 保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている | | ○ | 研修等で保護者に対して支援のスキルを身につける。 |
| 保護者への説明責任等 | 30 | 運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている | ○ | | パンフレットやwebで説明している。 |
| | 31 | 保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている | ○ | | 相談があったときは話を聞き、対応をする。 |
| | 32 | 父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している | | ○ | コロナ禍で実施してなかった保護者会などほとんどの保護者が参加できる配慮企画する。 |
| | 33 | 子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している | ○ | | 迅速かつ納得できる対応し再発防止等に努める。 |
| | 34 | 定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している | ○ | | 施設だよりを発行し配布している。 |

| | | | | | |
|-------------|----|--|---|---|---|
| | 35 | 個人情報に十分注意している | ○ | | 周知徹底している |
| | 36 | 障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている | ○ | | |
| | 37 | 事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている | | ○ | 実施していないが行っている施設を参考に して計画したい。 |
| 非常時等の 対応 | 38 | 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している | ○ | | 有事の為に定期的に訓練を計画実施し改善を要するに点があればマニュアルに反映し職員や保護者に周知している |
| | 39 | 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている | ○ | | 定期的に避難対処訓練を実施し感染対策、緊急時の避難場所、方法等の文章を配布した。 |
| | 40 | 虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている | ○ | | 研修が実施されるときは必ず参加し、レポート提出して共有している。 |
| | 41 | どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している | ○ | | |
| | 42 | 食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている | ○ | | 保護者との申し合わせで徹底されている。共同で調理するときも器具容器材料の区別を徹底している。 |
| | 43 | ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している | ○ | | 軽微な事項でも報告記録共有している。 |